

人間っていいな やさしい町南区

六つ川台小学校

4年 男子

「弘明寺商店街」「弘明寺かんのん」、など南区には、たくさんみ力がある。

ぼくの住む地域には、町の人がやさしく、「大丸いせき」のあとがあり、れきしを知ることができる。たくさん遊ぶ、ことのできる公園がある。

だから、ぼくは、この町が、すてきて良いと思う。

この前、よく行く公園に行った時、おばさんが火ばさみを持って、ごみ拾いをしていた。

それを見て、「おはようございます。」と、弟と言った。すると、あいさつを返してくれた。おばさんが、カメをつれて散歩に来ていたと教えてくれた。

その他にも、何年生なのか、カメのことで、話をして、楽しい時間だった。そして、おばさんがごみを拾ってくれて、「ありがたいな。」と思った。気さくに話しかけてくれる、町の人が好きだ。地域のために、公園のごみを拾うすがたが、すごいと思った。

ぼくが、とくに、この町のすてきたと思うところは、町の人が親切なことだ。

ある日、習い事に行く時、バスの中で、知らないおばあちゃんが、ぼくのかたをたたいて、「いいよ。」と、言ってくれた。その日は、雨がふっていたので、ぼくはかさを、持っていた。

すると、おばあちゃんが、「かして。」と言って、ぼくのかさをまいてくれた。

ぼくは、あたたかい気持ちになった。けれど、きんちょうしていて、小声で「ありがとうございます。」と言った。

親切な人が、この町にいて、うれしい気持ちになった。

また、別の日に、習い事の帰りの時の事だった。その日も雨だった。

バス停をおりた時に、かさをさして歩いていたら、かさが、ひもに引っかかってしまった。そのまま進んでひもを外そうとしてもとれなくて、あたふたした。

すると、後ろにいた中学生か高校生くらいの、知らないお兄さんが、だまってぼくのかさをひもから外して、かさをすぼめて渡してくれた。

今度は、はっきりとした声で、

「ありがとうございます。」

と、言えた。

こうした、出来事をけいけんして、ぼくは親切にしてもらって、とてもうれしくあたたかい気持ちになった。

ぼくも町の一人として、出来る事をせいっぱいやりたい。そして、この町がもっと、太陽のように明るくすてきな町になるために、ぼくはいろいろな人にあたたかく関わっていききたい。

手話の大切さ

六つ川台小学校 4年 女子

私が手話をテーマにしたきっかけは、学校の国語の授業です。ロッカーの上においてあるたくさんの本を見ていると、「あなたの声がききたい」という題の本を見つけました。

その本は聴覚障害の人の生活や思いが物語でかいてあって、読み終わると涙が出てくるほど感動する1さつでした。

そこで、私は基本の手話ぐらいは覚えておこうと思い、夏休み中に読む本を選びながら手話のやり方がかいてある本をさがしていたのですが、読んでみるとかんたんな手話でもいくつもおぼえるのはむずかしくて大変です。なので、本で手話を覚える方法はあきらめました。

それでも何日かの間、考えつづけていると、ある方法を思いつきました。学校で手話の授業を開く方法です。学校でも手話の勉強をしたら、どんな人も聴覚障害の人と少しはかかわれるかも知れないと思ったからです。

私は1・2年生のとき、音楽の授業の前には必ずクラスみんなで「さんぽ」の曲の手話バージョンを練習しました。それでも、全ての手話をそれで覚えられるわけではないので、やはり、勉強としてちゃんと学んだほうがいいと思うのです。

耳だけでなく、目が見えない人や、生まれつき手足が不自由な人もたくさんいます。そういう人たちがもっと楽しく、安心してくらせる世界になってほしいと、今もつよくおもっています。

どりよく か 努力で変わろう

六つ川台小学校 4年 男子

「子どものころから負けずぎらいでした。」と、スポーツ選手やオリンピック選手が、テレビで言っているのを聞いたことがあります。ぼくは、運動会で負けても「残念だったなあ」とか「また次がんばればいいや」と思うだけでした。だから、自分のせいかくは負けずぎらいではないと思っています。

ぼくは、3才から水泳を習っています。最初のころは、顔を水につける練習から始めて、今はクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライが泳げるようになりました。この4種目の中で、平泳ぎが一番苦手だったので、日曜日にお父さんと市民プールへ行って、練習をしました。そして、だんだんコツをつかんで、一番とく意になりました。

ぼくが習っている水泳教室には、年に数回大会があります。教室のかべに、かこの大会の新記録がはってあって、ぼくは「平泳ぎなら大会新記録を出せるかもしれない」と思いました。

そして、大会本番になりました。とてもきんちょうしたけれど、新記録をだすために気合いを入れて泳ぎました。結果は、0.09秒届きませんでした。0.09秒は、まばたきをするよりも短い秒数だとお父さんが教えてくれました。そのとき、ぼくは初めてくやしいと思いました。だけど、なみだは出ませんでした。

家に帰ってから、「スポーツ選手やオリンピック選手はくやしなみだを流すのに、なぜぼくはなみだが出るほどくやしくならなかったのだろう」と思っていたら、

「スポーツ選手やオリンピック選手は、人の何倍も練習をして努力しているから、人の何倍もくやしくなるのではないか。」とお父さんが言いました。この言葉を聞いて、ぼくは、水泳教室で練習をしただけで、他は何もしてなかったことに気づきました。

3か月後に、また大会があります。今度こそ大会新記録を出したいです。そのためは、「ぼくが変わる必要がある」と思っています。速く泳ぐためには、どうしたらいいか研究をしたり、体力をつけるために走ったり、自分でできることを考えて、人の何倍も練習をして努力しようと思っています。

「南区制80周年 おめでとう」という旗を弘明寺駅前で見ました。ただ、「区制80周年」と言われても、僕はそれが長いのか短いのか、あまりよくわかっていなかったのので、「ふーん」ぐらいにしか思っていないで、「おめでとう」と書いてあるぐらいだから、良いことなんだろうなとは思いました。ただ、80周年と聞いて、「あ、じいちゃんと同じ年なのかー。じいちゃんが生まれた年に南区は出来たんだ。」と思いました。ちょうど学校でも歴史の勉強が始まり、僕は歴史の授業が好きなので、歴史を調べてみることにしました。

80年前とは、1944年です。僕にとって80年前なんて、すごい昔のように感じていて、明治時代かなと思っていたら、80年前はもうすでに昭和時代でした。1944年は、丁度第二次世界大戦、太平洋戦争の最中でした。戦争も僕にとってはすごい昔のことのイメージだったので、びっくりしました。じいちゃんから、昔の話は聞いたことはないけれど、じいちゃんは戦争中に生まれていたのだなーと実感しました。戦争後は、食べる物もなく、大変な生活の中、じいちゃんは育ったのだと感じました。原爆投下とか教科書に載っていることもあって、僕の中では勝手にすごい昔の歴史的事件にしてしまっていたけれど、じいちゃんの生きていたときに起こったことなんだなと思いました。今は、ウクライナで戦争をしているけれど、遠い外国の話で、身近で戦争で人が亡くなったりにしていないので、僕にとって戦争は実感のない出来事だけれども、今後平和な日本を守るためにも戦争の悲惨な話とかをじいちゃんに聞いて、僕も戦争を起こさない未来を作っていきたいです。

また、前に学校で昔のことを学習したときに、学校ができたときの周りの写真を見せてもらいました。今の学校の周りは家がたくさん立ち並んでいるけれど、昔の学校の周りは山や畑で今の様子と全然ちがいました。学校ができて47年ぐらいの間に色々発展して変わったのだなと思いました。僕たちは、今日あまり変化というものを感じてはいないけれど、後から見るとこの今日もきっと変化しているのかなと想像します。そんな中、80年という長い年月が続いた南区は、お祝いの80周年になると思いました。

みなさんも一度は犬を飼ってみたいと思ったことがあると思います。かわいから飼ってみたい、その様に思った人が多いと思います。だけど、実際に飼ってみると飼うのがめんどくさい、お金がかかりすぎ、言うことを聞かない、最初は、かわいとおもっている、いざ飼うと大変なことがたくさんあります。

ぼくも犬を飼っています。だけど、最近、犬が病気にかかってしまい、たくさんお金がかかる様になりました。それでもぼくの親は犬を飼いつづけています。

だけど世界では、お金がかかるから手放す、言うことを聞かないから手放す、さらには虐待をする人だっています。

犬たちは、なにも罪がないのに足を失ったり、目が片方開かなくなったりと虐待をされて、捨てられてしまいます。そして保護されます。だがこれで安心では、ありません。保護されて、飼い主が見つからないと殺処分されてしまいます。だけど、その殺処分をなくすために保護所の人たちが努力をしています。ですがこの問題は犬を放棄している人が行動を変えないと、犬たちは救えません。

犬たちは、物ではありません。虐待をするためにいるわけでもありません。命なのです。犬たちだって一生けん命毎日生きています。犬たちを飼うならしっかりと命を預かり、犬の最後をしっかりと見届けてあげなければならないのです。